

自分たちでつくる交通安全ルール—自ら実践する安全な通学—

本時の目標

自他の生命を尊重する態度を養うとともに、現在および生涯にわたり交通事故防止の主体者として、安心安全な社会の構成員を育成するという第一義的なねらいとあわせて、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決していくことのできる資質・能力を育成する。

本時の位置付け

(7時間 展開例 2/7、3~4/7、5/7、6~7/7)

- (1) 交通事故の防止と責任 (保健体育 1時間)
- (2) 社会のルールについて (公民 1時間)
- (3) 交通遺族講話 (特別活動 [学校行事並びに生徒会活動] 2時間)
- (4) 自分たちで作る交通ルール (特別活動 [ホームルーム活動] 1時間)
- (5) 自分たちで作る交通ルール (特別活動 [生徒会活動] 2時間)

※(2)では、社会のルールがどのように形成されているのかを学んだうえで、身近にある交通ルールを題材として、自らも他者とともに納得できる解決方法(話し合い→合意形成→意思決定)について学ぶ。
 ※(3)では、人間の社会活動を支える交通安全に関する諸課題は命の問題であり、安心安全な生活と直結していることを学ぶ。さらにそのうえで、生徒自ら(自分たち)の交通安全に関する現状を客観的に分析し、解決すべき課題が存在することを、個人並びに集団として認知し、問題を提起する。
 ※(4)(5)では、(1)(2)(3)を踏まえ、通学等に関する自校独自のルールを生徒自ら合意形成を図りながら意思決定し、実践する過程を通して当事者意識を醸成し行動が安全なものに変容していくことをめざす。

学習の展開例

● (2/7) 公民「社会のルール」1時間

過程	学習活動	支援・指導上の留意点
導入	1 「社会のルール」が、なぜ必要なのか、またどのような過程で必要とされてきたのかについて考える。	1 「社会のルール」がその当時の社会の課題に対応するために、決められ、変化してきたことに発問、話し合いを通じて気づけるようにする。
展開	2 「社会のルール」が、予め存在した不可変のものではなく、社会に生きる我々自身が形成するものであることを、交通ルールが決定される社会的な流れを実践することで学ぶ。	2 生徒自身が、現在の社会における交通ルールの問題点や変更が必要な点を提出し、自らも他者も納得できる社会的解決プロセスを考えられるようにする。 3 生徒自身から、「社会のルール」、特に交通ルールを守ることの重要性についての主体的意見が出てくるように留意する。
まとめ	3 倫理的主体として、自分自身が属する社会が決定したルールを守ることの大切さを認識する。	

● (3~4/7) 特別活動 [学校行事並びに生徒会活動] 2時間

過程	学習活動	教師の支援・指導上の留意点
導入	1 交通遺族講話を聴き、遺族の悲しみや想いに触れ、命の尊さを実感するとともに、交通安全に対する当事者意識を高める。	1 交通遺族講話の事前活動として、「もし、被害者(若しくはその家族)になったら…」というテーマで議論したり、加害者であれば被害者に対して手紙を書くといった疑似体験を経験したりするなど、当事者意識の醸成をより効果的にする取組などが挙げられる。
展開 まとめ	2 生徒会役員を中心に、自分たちの交通安全に対する意識と実際を振り返り、現状の課題を明らかにした上で、「自分たちでつくる交通ルール」を定めることを、後の生徒総会で審議可決することを提案する。	2 身近な生活上の課題を自主的に解決するという生徒会活動の中で、交通遺族講話と連携した活動と位置付け、事前に生徒会役員の動機付けを図っておく。

交通遺族講話の趣旨とあわせて、5以降の特別活動へつなげる学習活動として位置付ける

● (5/7) 特別活動 (ホームルーム活動) 1時間

過程	学習活動	支援・指導上の留意点
導入	1 生徒会役員が提案した議題の趣旨と話し合いのルールを確認し、現状の課題を共有する。	◎ 教師は、議事進行役の生徒に対して、事前に話し合いの流れや時間配分などについて打ち合わせを行う。また、生徒一人ひとりが問題意識を持てるようにするために、事前の情報収集を生徒全員に促しておく。
展開	2 多様な意見を尊重しながら、クラス集団としての合意形成を図る。	◎ 教師は、保健体育、公民、交通遺族講話などを通して生徒たちが学んだ知識や考え方を活用できるよう議事進行役の生徒らを支援する。
まとめ	3 クラスとしての代表意見を意思決定し、生徒総会に対する提案としてまとめる。	

● (6~7/7) 特別活動 (生徒会活動) 2時間 ※生徒総会等の機会を活用する

過程	学習活動	支援・指導上の留意点
導入	1 「自分たちでつくる交通安全ルール」の趣旨と意義を、生徒全員で共有し確認する。	◎ 各クラスの提案を選出するにあたっては、生徒と共に事前の審査や調整を行い、交通事故防止のために有効であり、かつ自分たちで本当に実践可能かどうかを考慮する。選出した案については、運営委員会等における承認も同時に得ておくことが望ましい。
展開	2 選出した提案の発表(プレゼンテーション)を行う。 3 提案内容に対する不明点や疑問点を明らかにしつつ、実施することを前提により具体的な内容について協議する。	◎ 議事進行を司る生徒会役員に対しては、話し合いの流れや時間配分、採決における評価基準(交通事故リスクを低減し、かつ実践可能であるかなど)や採決方法について、事前に打ち合わせを行う。
まとめ	4 それぞれの提案に対する採決を行う。(投票による採決の場合は、後日となる場合もある) 5 採決したルールを自分たちで守っていくという宣言を行う。	◎ 可決されたルールの運用については、教職員、保護者、地域と協力しながら改善を図っていくものとし、生徒自らが自己評価の主体者であること(自分たちで決めたルールだから…)を宣言できるよう促す。

評価計画

- 5~7/7の特別活動においては、次の点を評価するための事後アンケートを実施し、ホームルーム活動等における事前活動や授業内容の改善につなげる。
 - ・関連して実施した授業(保健体育・公民)の効果や成果
 - ・話し合いに参加する意欲・態度
 - ・自分たちで合意形成を図りながら、一つのルールを決めていくという取組に対する興味・関心

- ルールの採択後に関しては、生徒たちが採択したルールを保護者や地域へ発信したうえで、ともに見守る姿勢を示しながら、評価や助言を得る。
- 実践後については、採択したルールに応じた適切な評価基準(たとえば、一時停止率を〇%とする)を設定したうえで、生徒の行動観察を定期的実施することにより、行動レベルでの生徒の変容を分析評価のうえ、改善につなげる。

教材

- 「学校文化を創る特別活動(高校編)ホームルーム活動のすすめ」
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
(<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>)

- インターネット情報発信「交通安全ライブラリー」
一般財団法人 日本交通安全教育普及協会
(<https://www.jatras.or.jp/library.html>)

単元 自然環境と防災 関連する主な教科 理科、保健体育、家庭

持続可能な「まちづくり」に参画しよう

単元の目標

- (1) 日本で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色や自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解できるようにする。
- (2) 特に風水害に対応したハザードマップや新旧地形図など各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめることができるようにする。
- (3) 地域性を踏まえた防災について、適切な主題を設定し、特に風水害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 近年、生活圏で発生している自然災害（特に風水害）を調べ、その発生原因となる自然環境や人間活動とのかかわりを理解している。 災害の危険が高まったときに必要な備えや対応を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な「まちづくり」に着目して、風水害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 風水害に対応したハザードマップなど各種の地理情報を収集し、読み取り、図表などにわかりやすくまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏で発生する風水害からの防災・減災について関心と課題意識を高め、意欲的に主題を設定しようとしている。 持続可能な「まちづくり」の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	評価規準	評価方法
1	生活圏の自然環境と自然災害	・地域の自然環境の特徴と自然災害との関係を理解する。	・自然環境と自然災害との関係を理解している。	
2	風水害の発生しやすい地域の自然および社会的要因	・さまざまな地理情報を活用し、生活圏で発生してきた風水害の自然および社会的要因を考察する。	・さまざまな地理情報を有効に活用しながら、自然災害（風水害）の要因を考察し表現している。	ワークシート
3		・生活圏における防災体制の現状を理解し、避難所の場所や家庭での備えの状況が適切かどうか分析する。	・大雨や台風などの際に考えられる具体的な風水害を想定し、どのように行動すればよいか考えている。	
4 本時	風水害から身を守るために	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏で風水害の危険に直面した場合、自宅や通学経路、学校でどのような行動を取ったらよいか考え、日ごろの備えの重要性を理解する。 持続可能な「まちづくり」に向けた課題解決のための主題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた地域の防災情報を基に、自然および社会的条件にあわせた避難計画や防災のための施策のあり方について考察し、風水害に強い「まち」について考察し表現している。 主題設定のための情報収集に主体的・協働的に取り組んでいる。 	レポート課題

本時の展開

本時の目標

生活圏における防災について、自然および社会的条件との関わりや持続可能な「まちづくり」などに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。

学習活動・内容	指導上の支援・留意点	評価方法
<p>1 前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で発生した風水害の歴史と被害の状況、さらに年々被害が大きくなっている原因を確認する。 <p>2 風水害による被害から身を守るための備えと対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅や通学経路、学校で風水害の危険と直面した場合、どのような行動を取ったらよいか考え、日ごろの備えの重要性を理解する。 自宅や通学経路、学校がある地域のハザードマップや新旧地形図などの地理情報から風水害の危険性を調べる。（※参考資料等①②） <p>3 風水害に強い「まちづくり」に必要な取組について考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 風水害に強い「まち」とは何かを考え、身近な地域の防災について調べる。 <p>※防災情報や避難計画などの防災施策の有効性についても考えられるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 風水害の発生しやすい地域と自然環境（地形、気候など）と社会的要因について、具体的な災害ごとに発問等で生徒の考えを共有する。 生徒が ICT 機器を活用し、WEB GIS の情報から風水害リスクとその対応を考察できるよう指示する。 <p>※参考資料等</p> <p>①ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/</p> <p>②地理院地図（電子国土 Web 自然地形等レイヤ重ねあわせ図） https://maps.gsi.go.jp/</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨や台風の際に発生が想定される河川の増水や道路冠水、倒木、土砂崩れ等について、対応策を考えられるようにする。 調べた地域の防災情報を基に、あらゆる事態を想定した現実的な避難計画を立てられるか考えるよう働きかける。 防災のための施策について現状の問題点や改善点を考えるよう促す。 	<p>ワークシート</p> <p>レポート課題 （レポートは個人またはグループでの作成を可とし、適切な作成期間を設定する）</p>

風水害に備えよう

単元の目標 自然景観の成り立ちとその変化、自然災害について観察、実験などを通じて理解させるとともに、常に変化し続けている自然景観とそれを引き起こす作用について関心を高める。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 身の周りにおける自然景観の成り立ちと自然災害の特徴を知り、事前の備えや対応について理解している。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然景観と自然災害に関する観察、実験などを見通しをもって行い、自然災害がもたらす被害とその原因を科学的に考察し、表現している。 各種情報から想定される自然災害を見出し、防災に関わる現状の課題点と解決策について科学的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の周りにおける自然景観や自然災害に関する事物・現象に進んで関わり、防災について関心と課題意識を高め、科学的に探究しようとしている。 防災の視点から持続可能な「まちづくり」について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。

単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	評価規準	評価方法
1	地形の成り立ち	身の周りにおける自然景観に関心を持ち、その成因や日本列島の特徴、プレート動きを理解する。	身の周りにおける自然景観の成り立ちについて関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	問題演習 定期試験 課題レポート
2		日本の火山活動に関心を持ち、火山の噴火や火山の形の成り立ちについて理解する。	日本の火山活動や火山の噴火と火山の形について理解している。	
3	地震活動と地表の変化	地震に関心を持ち、地震の発生する仕組みについて理解する。	日本列島の地震活動と地震の発生の仕組みを理解している。	問題演習 定期試験
4	水のはたらきと地表の変化	河川の運搬・堆積作用を調べ、河川や海水のはたらきによって形成される地形について考察し、表現する。	河川や海水のはたらきによって多様な景観ができることを考察し、表現できる。	実験レポート
5	自然災害とその防災	自然災害について関心を持ち、防災の視点から持続可能な「まちづくり」について考える。	自然災害について関心を持ち、防災の視点から持続可能な「まちづくり」について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	問題演習 定期試験 課題レポート
6 本時		風水害時の対応や日ごろの備えについて、各種情報から科学的に考察し、表現する。	各種情報から想定される自然災害を見出し、防災に関わる現状の課題点と解決策について科学的に考察し、表現している。	

本時の展開例

本時の目標 風水害に関する基本的な理解を深め、各種情報を収集し、読み取り、学校周辺や各自の通学経路の危険な箇所を把握し、災害時の対応や日ごろの備えについて考え、表現する。

学習活動・内容	指導上の支援・留意点	評価方法
<p>1 前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 風水害の仕組みとそれを防ぐための方法について確認する。 <p>2 危険箇所の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校周辺や通学路で風水害に直面したときの対応や日ごろからの備えについて考える。 各種資料を用いて、学校周辺や通学路の危険箇所を把握し、白地図にまとめ、具体的な対応策や日ごろからの備えについて考える。 <p>3 風水害時の対応や日ごろの備えについて共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 予測できる自然災害（特に風水害）について、日ごろから対応を考え、備えておくことの重要性を理解する。 風水害時の具体的な対応をグループごとに発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 風水害について、いくつかの具体的な例を挙げ、生徒の考えを共有する。 生徒が ICT 機器を活用し、風水害時の対応や危険箇所を確認する。 ※参考資料等 ①国土交通省 地点別浸水シミュレーション検索システム https://suiboumap.gsi.go.jp/ ②洪水ハザードマップについて（神奈川県 HP） https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/bosai/hm.html ③洪水や土砂災害に備えよう（神奈川県 HP） https://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/bousai/1_3244_9_12.html 台風や集中豪雨の際に想定される災害について、対応策を考えるようにする。 防災に関わる現状の課題点や解決策について考えるように促す。 	<p>課題レポート</p>